



# 木森

千葉県 TEACCH プログラム研究会

2025年7月6日(日)第133号

「森」字・佐々木正美  
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内

TEL :043-227-8557



## 第1回 連続セミナー

### 「TEACCHの今」

川崎医療福祉大学

諏訪 利明 氏

5月に行われた第1回連続セミナーでは、川崎医療福祉大学教授の諏訪利明先生をお招きしてTEACCHプログラムの「ASDの方とその家族を中心に考えていく」という理念をこれまでの歴史や現在、未来に向けてお話しいただきました。エビデンス（研究者のためではなく、実践者のための手ごたえのようなもの、現場が実践をするために確信をもちながら進める、本人とその家族に役立っているかを裏打ちするもの）をもとにしたサポートの体制づくりやTEACCHの原理から、今進化していることなどセミナーに参加している人が自分だけでなく大切な人に伝え、広めたくなる素敵な学びの場になりました。

### ノースカロライナ州から広がるTEACCHの歴史

- 1960年代ノースカロライナ大学医学部のエリック・ショプラー博士（初代部長）において開始された。自閉症の原因は親の育て方ではなく、本人の脳の障害であり、構造化された場面での教育が良い結果をもたらすと述べた。
- 1972年にTEACCH Autism Programはノースカロライナ州の複数の地域センターからなる自閉症支援システムとして開所となった。
- 自閉症の人たちの独特なニーズをアセスメントして、みんなと一緒にやってくれるためにどうすればいいのかを家族と一緒に考えながらサポートしていくサービス。
- 生涯にわたるサービスを提供するシステムで主に4つのサービスがある。
  - ①診断評価
  - ②専門家トレーニング（5ディトレーニング、ファンダメンタルトレーニング、国内外でのトレーニング、インターンシップ、研修生の受け入れ、年次カンファレンス）
  - ③介入サービス（親教育、コーチング、早期介入、個別カウンセリング、介入グループ、支援付雇用、サポートグループ、親向けワークショップ）
  - ④研究
- 2代目部長は、ゲリー・メジボフ博士、現在3代目は、ローラ・クリンガー博士である。

### TEACCHのコアバリュー

（仲間や地域の人たち ASDの人とその家族と共に活動するために）

- ①Commitment 他者の生活に前向きな変化が生まれるように献身的に取り組む。
- ②Collaboration（互いを尊敬し価値を認め、協働とパートナーシップの文化を生み出す）
- ③Excellence（革新的で素早い実践を通してエビデンスに基づいた方略を届ける）
- ④Strengths（すべての個人のユニークな強み、プラス面を見て尊重する）
- ⑤Continuous Lifelong Learning（継続的に生涯学び続けることの重要性を強調する）
- ⑥Inclusion, Diversity, and Equity（共生、多様性、公正を促進する環境を作り出す）

## ストラクチャードティーチング(構造化)

- 自閉症の人たちの良さを引き出すために、Structured TEACCHing を用いる。
- ASD の人の学習スタイルを知る必要がある。
  - ① 暗黙的な学習 (明確な指示がないと手がかりを見つけれない)
  - ② 注意 (細部に集中する)
  - ③ 実行機能 (時間管理と整理整頓が苦手)
  - ④ 社会的認知 (相手の立場に立って考えられない)
- 学習スタイルからアセスメントを実施し、保護者と協力しながら指導目標 (社会的な関わりやコミュニケーション、必要なスキル、行動上の課題の予防) をたて、教育的な強み (視覚的な構造化、本人の興味関心、多くのエビデンスに基づく強み) をもとに優先順位 (自立、般化、柔軟性、セルフアドボカシー、ウェルビーイングの視点で考える) をたてサポートする。そして再構造化をしていく。
- TEACCH の原理
  - ① ASD の人たちを支援するためには彼らの世界の理解の仕方や経験を学び、私たちの世界を結ぶ架け橋を創造しなければならない
  - ② スキルを教えることと「ASD フレンドリーな世界」と「彼らが学びやすい環境」を作り出すことの両方を行う
  - ③ 一人一人に合わせる。(どんな構造化を使うのか、本人が注目しやすく、意味がわかりやすいものに変えていく)
  - ④ 親と専門家は連携して活動する。

## 進化する TEACCH

- 「Tステップ」(就労準備と実行機能スキルの向上を重点として、メンタルヘルスや成人期への移行、地域に根ざした介入にも重点をおいており、継続的な学習とエビデンスに基づいた支援を追究している。
- 「Aging」ASD の人の高齢化の課題について成人期への早期介入の重要性に焦点が当てられ、地域に根ざしたサービスの提供が必要である。
- ASD と診断された歴史的背景を基にコホート研究(共通の特性をもつ集団の研究)を実施していく。

## 変わらないもの

- TEACCH は進化しているが、変わらないものとして ASD とその家族が中心であること、様々なエビデンスを積み上げて広げていくこと。
- 一貫した支援はストラクチャードティーチングであり、どこにいても ASD の人が理解される社会を作ること。



## 千葉県 TEACCH プログラム研究会第3回連続セミナー紹介

日時： 9月28日(日) 14:00~16:30 (13:30 受付開始)

内容：「自閉症のある方へのコミュニケーション支援(仮)」

講師：五味純子氏(社会福祉法人大和しらかし会 サービス管理者)

会場：千葉県教育会館 604 会議室(千葉市中央区中央 4-13-10)

【編集後記】久しぶりの諏訪先生の講義を受けられたことに感謝しています。これまでの先生の教えの中で私が一番印象に残ってきたことは、「アセスメントはしつこく、療育(教育)はあっさりするのが基本です、本人に合わない支援や教育を受けることの苦痛は本当に嫌になるだけ、悪影響しかないから」と言われたことです。支援がうまくいかない時は常に「この場面ではどうだろう、何が好きだろう、保護者に聞いてみよう」と何度もアセスメントに立ち返りました。相手をよりよく理解することがアセスメントであり、それに基づいて対応していくことが私の核となりました。

これまでの教えを私の大切な人たちに広め、仲間を増やしていき、ASDの方が理解される社会を作ることにはベストを尽くしていきたいと思います。次は五味先生のコミュニケーション支援のセミナーです。何度も聞きたいセミナーのひとつです。一緒に学びませんか。(吉村)